

グループ名 ・代表者名	松葉のダイオキシン調査2010.3実行委員会 岡本 京子	助成金額	20万円
連絡先など	23区南生活クラブ生活協同組合 Tel:03-3426-9914 E-mail:runmama@nifty.com・block.23ku@s-club.coop		
助成のテーマ	市民が行なう松葉のダイオキシン調査		

【調査研究・研修の概要】

- ・東京23区内においては、2008年度から順次、廃プラスチックが混合焼却されることになり、混合焼却実施前後の調査を比較することで、廃プラスチック混合焼却が環境へ与える影響を実証することをねらいとした。
- ・手法：
対象地域内のクロマツの針葉を2010年3月に一斉に採取後、ブレンド・調整し検体をカナダのマクサム社に送り、同社が分析を行った。結果については(株)環境総合研究所の池田こみち氏に分析・評価していただいた。
- ・成果：
廃プラスチックの混合焼却が環境に与える影響を実証することができた。
行政および清掃一部事務組合によれば、ダイオキシンは減少しているとのことだったが、今回の調査からは全体として「空気中のダイオキシンの濃度は僅かながらも上昇傾向にある」ことが分かった。また今回12種類の金属類の調査も同時に行ったが、松葉には大気中に排出された金属類が気化して気孔から取り込まれている可能性が分かった。

【調査研究・研修の経過】

2009年6月：松葉のダイオキシン調査スタート集会（世田谷区内の生活クラブ館にて）

2010年1月：学習会「子どもの健康と環境ホルモン」（世田谷区内にて）

講師：国立成育医療センター研究所・緒方勤先生

まち江戸川にて、ぜん息ワークショップ（他のまちでも2009年～10年に複数実施。／※「まち」とは23区南生活クラブ生協の組織単位）

2月：松葉の調査キット配布作業

3月：採取回収松葉の整理作業および(株)環境総合研究所への発送

4月：アースデイ東京にて活動のアピール

6月：「市民がおこなう松葉のダイオキシン調査2010.3」報告集会

講演：(株)環境総合研究所・池田こみち氏

10月～11月：リーフレット、パンフレット作成

【今後の展望など】

- ・「松葉で環境を考える会」として、2Rの促進活動を進めていく。
- ・今後も3年後（2013年3月）に調査を行うため、活動を継続していく。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
印刷費	報告書作成費用	369		340	29
協力者謝礼など	学習会講師謝礼	30			30
外部委託費	松葉の分析調査費用	1,410	200		1,210
合 計		1,809	200	340	1,269

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・詳しい報告書はコチラから⇒23区南生活クラブ生協ホームページ
<http://tokyo.seikatsuclub.coop/23ku-minami/>
↑アドレスが変更になりました。

*廃プラ焼却前後の松葉によるダイオキシン及び金属類調査結果概要

*2010年3月松葉によるダイオキシン類測定分析調査結果報告書
(廃プラ混合焼却本格実施後の確認調査)

- ・『環境行政改革フォーラム論文集Vol.3 No.1』に、下記を掲載
*廃プラ焼却実施前後の大気中ダイオキシン類濃度の変化～東京23区南部エリアを事例として～

空気には壁がない！

食は選べるけれど、
空気は選べない

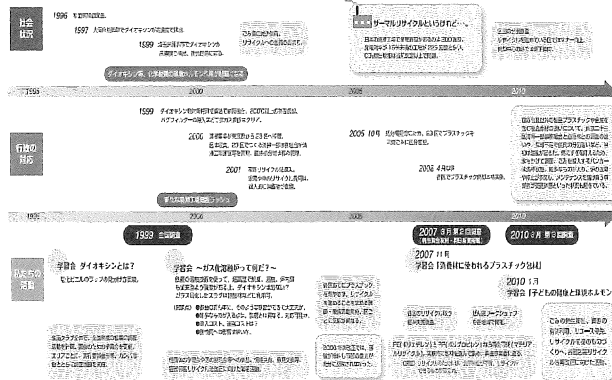


東京 23 区で始まっているプラスチック焼却は、
大気にどんな影響を与えているのでしょうか？

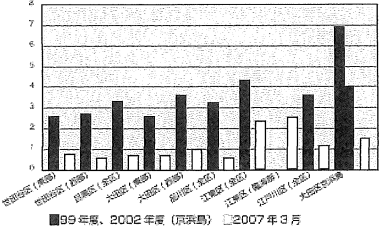
焼却炉から出るダイオキシンが大きな問題になった 1999 年、私たちは初めて松葉のダイオキシン調査を行いました。その後、焼却炉からのダイオキシンを減らすために、規制が強化され、膨大な税金が投入されたことにより、大気中に排出されるダイオキシンの量や濃度は大幅に改善されました。

しかし、2008 年、東京 23 区では廃プラスチックの混入焼却が始まりました。そこで廃プラスチックの焼却が始まる前と後の大気の状態を比較するために、改めて松葉を使って 2 回のダイオキシン調査を行いました。

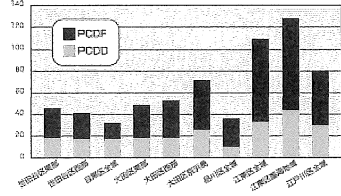
私たちの活動のあゆみと社会状況



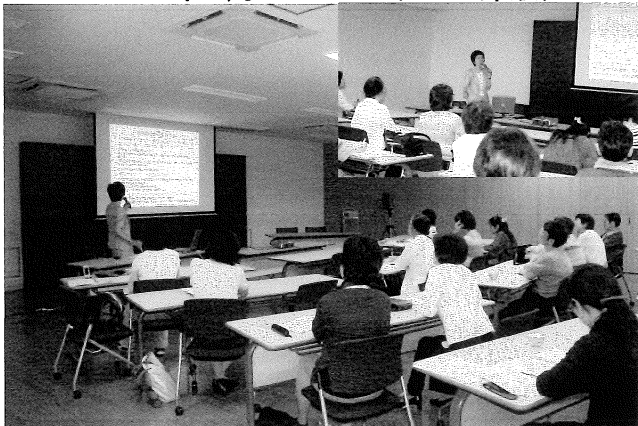
1999 年度と 2007 年 3 月の調査結果の比較



2007 年 3 月調査者性特異濃度



2009年6月23日 スタート集会



ぜん息ワークショップ



カンパアピール



松葉のダイオキシン調査 2010.3 報告

プラスチック、燃やしちゃダメです！
第3回目の調査を2010年3月に行う予定です。

【調査の目的】
ダイオキシンは健康被害を引き起こす可能性があることが明らかになり、規制が強化された。松葉のダイオキシン調査は、大気中のダイオキシンの濃度を測定し、その変化を把握するために実施されています。

【調査の経緯】
1999年、松葉のダイオキシン調査が初めて実施されました。その後、規制が強化され、膨大な税金が投入されたことにより、大気中に排出されるダイオキシンの量や濃度は大幅に改善されました。しかし、2008年、東京23区では廃プラスチックの混入焼却が始まりました。そこで、廃プラスチックの焼却が始まる前と後の大気の状態を比較するために、改めて松葉を使って2回のダイオキシン調査を行いました。

【調査の方法】
松葉のダイオキシン調査は、松葉のダイオキシン濃度を測定することによって行われます。松葉はダイオキシンを吸収しやすい植物であり、大気中のダイオキシンの濃度を正確に測定することができます。

【調査の結果】
2007年3月の調査結果は、1999年度の調査結果と比較して、大気中のダイオキシンの濃度が大幅に低下していることが確認されました。これは、規制の強化による効果を示しています。

【今後の展望】
2010年3月の調査結果は、今後の調査と比較して、大気中のダイオキシンの濃度がさらに低下していることを期待しています。また、廃プラスチックの混入焼却の影響を調査することにも取り組んでいます。

草の根市民基金ぐらんでのアピール

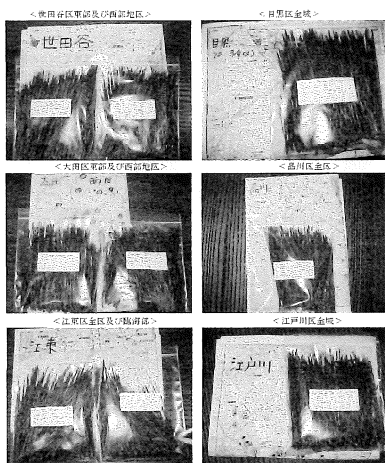
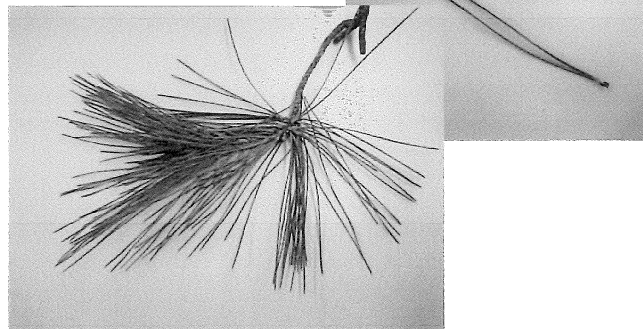


2010年1月25日 子どもの健康と環境ホルモン



松葉のサンプル採取

クロマツの針葉



4月18日 アースデイ東京



2010年6月24日 報告集会



報告書18ページ版

3010.06.24 23区南生活クラブ委員会資料
 廃プラ焼却後の松葉によるダイオキシン及び金属類調査結果概要
 株式会社 環境生活研究所
 代表取締役 佐藤 浩二氏 E: enviro@ecolife.jp
 〒142-0044 東京都目黒区中目黒3-2-1
 Tel:03-3942-6622 Fax:03-3951-1844

廃プラ焼却前後の松葉によるダイオキシン及び金属類調査結果概要 18ページ

2010年3月松葉によるダイオキシン類測定分析調査結果報告書 33ページ

- 調査の目的
 東京都23区において、主要な焼却炉の周辺、電線ケーブルの廃棄物処理場など、電線ケーブルの焼却処理場から発生するダイオキシン類の調査を実施し、松葉によるダイオキシン類の蓄積状況を把握し、市民の健康被害を防止することを目的とする。また、焼却処理場からのダイオキシン類の蓄積状況を把握し、市民の健康被害を防止することを目的とする。
- 調査の内容
 (1) 調査対象 焼却処理場周辺、電線ケーブルの廃棄物処理場
 (2) 調査地域 23区南生活クラブ実施エリア

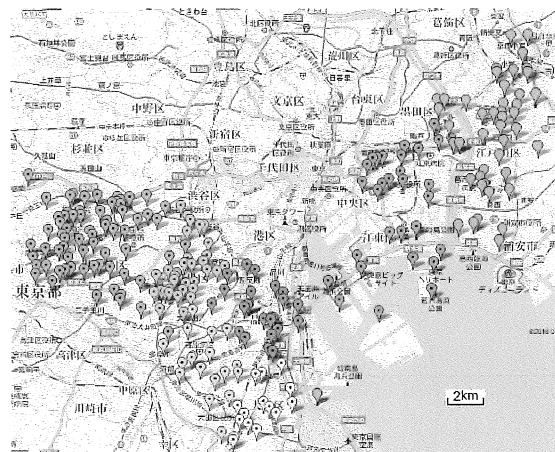
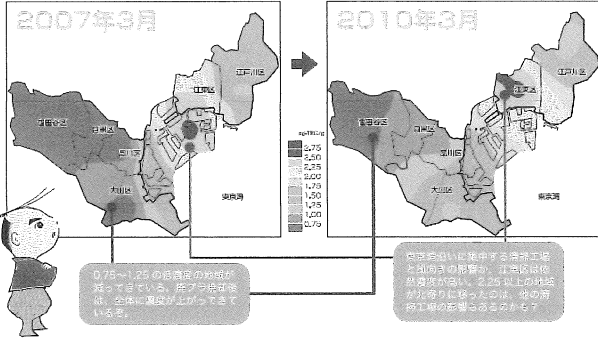


図3-1 サンプリング地図(全体)23区南生活クラブ実施エリア

ダイオキシン類濃度の比較

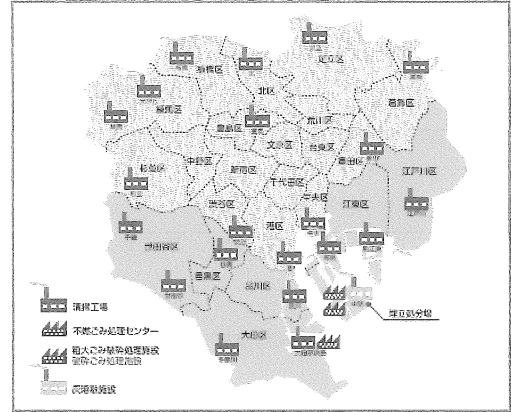


0.75~1.25の範囲内の地域が広がっている。庄アオ田等も、全体に濃度が上がってきている。

0.75以下に抑えられている工場と郊外の影響が、江東区は依然濃度が高い。2.25以上の地域がかなり広がったのは、郊外の汚染工場の影響が広がったため。

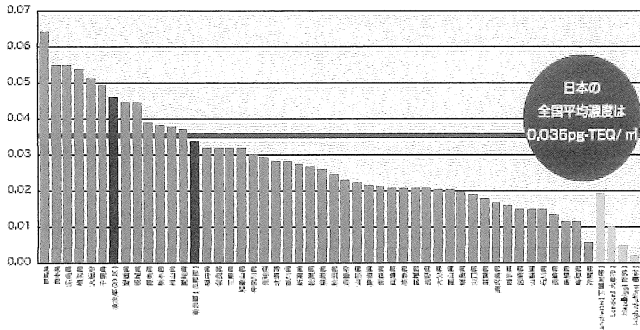
出典：環境総合研究所 Co-PCBを除くPCDDとPCDFの値。毒性当量係数 WHO-TEF(1997)を使用。各地域の汚染源に由来するダイオキシン類の濃度を測定し、濃度を平均化した。調査した9棟のエリア：世田谷区東部、世田谷区西部、大田区東部、大田区西部、目黒区、品川区、江東区、江戸川区、江東臨海部

東京 23 区の清掃工場分布図



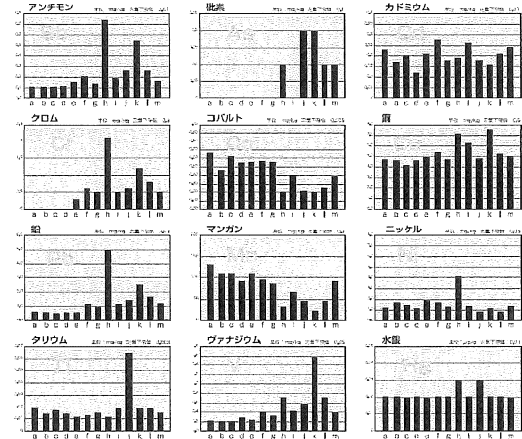
出典：東京二十三区清掃一歩協同組合 HP

出典：環境省公表データより環境総合研究所が都道府県別集計



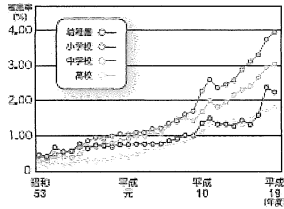
日本の
全国平均濃度は
0.036pg-TEQ/m³

12種類の金属調査



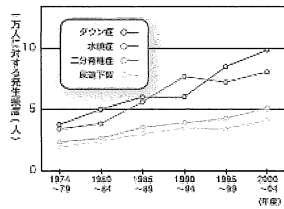
子どもの健康と環境に関する全国調査

わが国における児童等のぜん息罹患率の推移



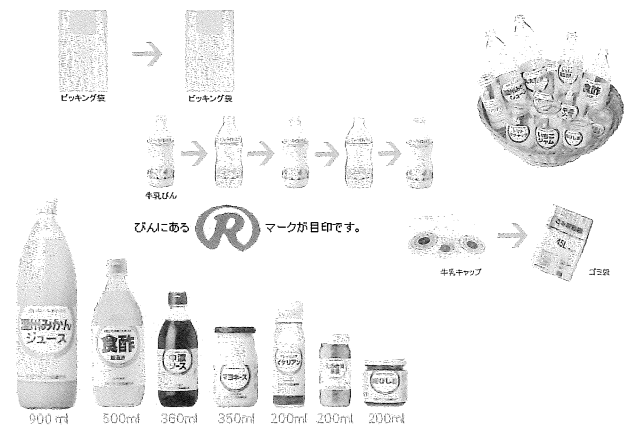
出典：学校保健統計(文部科学省)

わが国における先天異常発生頻度の推移



出典：国際先天異常発生監視機構(ICBS)

ごみの量を減らす社会のしくみ



びんにある R マークが目印です。

900ml 500ml 360ml 350ml 200ml 200ml 200ml